
校友会本部総会に参加して

三村 到 (高30回)



去る7月12日(土)に平成20年度本部総会が高田の「やすね」で開催されました。東京支部からは、榎野副支部長、柴田幹事長他総勢5名の代表者が招待され、私もその一員として参加して参りました。

総会は、幅広い年次にわたり約300名が参加する盛大な会でした。斎京稔校友会長の挨拶に始まり、新任の草間俊之校長(高25回)による高田高校概況の説明、平成19年度の会務、会計報告や平成20年度の予算など、予定通りに議事が進められました。また東京支部の榎野副支部長より高生生の勉学に資するための図書費が草間校長先生に贈呈されました。

なお併せて校舎改築記念事業の募金状況が報告されましたので、概況を下記に記します。

記念事業は、校友の皆様の寄付が主たる財源ですが、第1期寄付金(平成19年4月20日～平成20年4月19日)の総額は約1億4,500万円であり、目標金額には残念ながら届きませんでした。引き続き実施されている第2期の募集(～平成20年10月19日)では、6月11日までに既に約3,600万円の寄付があり、第1期、第2期の合算で目標金額を達成したとの報告がありました。これらの財源を元にセミナーハウス(合宿所)の建設やグラウンドの(簡易)照明設置、大体育館(現在建設中)のステージの緞帳など、在校生に役立つ設備に活用されることとなります。

さて、校友会参加ということもあり、久々に郷里高田を訪れた私としては、新築なった高田高校を一目見たいとの思いが募り、総会前の時間を利用して母校を訪問しました。新築なった校舎はやはり綺麗で大変モダンな印象でした。



当日は土曜日にもかかわらず運動部、文化部の活動に多くの高生が一生懸命汗を流しており、校舎内のいたるところから元気のいい声が聞かれました。きっと校友会寄付によるセミナーハウスは、彼らのような元気な高生にうまく活用されるに違いないとの(勝手な)確信を抱いて高校を後にしました。

最後に、今回の母校訪問で大変感心したことがありました。校舎内部を見学している際に会ったすべての生徒諸君が、(先輩ではありませんが)見ず知らずの私に対し「こんにちは」と元気に挨拶してくれました。当たり前のことを当たり前のようにすること(基本に忠実なこと)は一見簡単そうですが、本当はものすごく難しいことです。彼らの元気な挨拶の中に、基本事項がきちんと実行できる高生の将来の可能性を感じ取った訪問でした。